

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 ヘルスフードサイエンス学科

名 前 矢部 えん

作成日 2023年9月14日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、分子調理学（2年）、分子調理学（3年）、給食経営管理実習（校外実習）、食品加工応用、食環境生産教育実習、食品生産流通学実習（視察）、インターンシップ、卒業研究を担当。

2032年度は2年生ならびに3年生の副担任を兼務。

2. 理念（教育に対する考え方）

本学科学生は開発を目指す学生が多いこともあり、学生にはぜひ、「コミュニケーション能力」と、自身の想いを形とした「作り手も買い手も嬉しい品」を作ってもらいたいと思っている。

手始めとして学生時代に、消費者側の視点と作り手側の両方の視点を体験し、養ってほしいと考える。担当科目や大学の授業を通じ、「お金を払いたいと思うのはどんなものなのか？」という買い手の視点と、「お金をとれるものとはどんなものなのか？」「そのためにクリアしなくてはいけないものは何か？」という作り手側の視点を深く考え体験し、実感してもらいたい。

たとえば食事であったら、「お金を払う食事」と「家庭での食事」の違いとは何なのか？どんな食事であれば自分は「お金を払ってもいい」と思えるのか？

そして「お金をいただく食事」に含まれる背景についてしっかり学んでほしいと思っている。「お金をいただく食事」は、安心・安全であることは最重要であるが、そのほか、外観・味・価格・嗜好・文化的背景など多方面から考える必要がある。また、販売価格には、製品の中に材料のように目に見えない形（人間の労力、光熱費、利益等）で含まれたものが多数存在していることを一緒に体験しながら学んでほしいと思っている。これらについて学生時代に本学での学びを生かし、考えてもらい、ぜひ、将来自身の想いを形にした商品を作ってもらいたいと考える。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

本学科は「おいしいものを食べることが好き」「おいしいものを作りたい」という学生が多い。自分の頭の中にある料理を具現化するには食材に関する知識や料理技術、料理に関する文化的背景に関する理解、初めての方との円滑なコミュニケーションが必要である。調理学や調理学実習では、調理科学の知識や料理技術だけではなく、その日に作る料理の歴史的背景、使用する食材の旬や可食部以外の部分についても調べてもらったりしている。また調理学実習など班で実習を行う授業では、番号順ではなく、くじ引きで班を決定し、いろいろなクラスメイトと共同作業してもらうことでコミュニケーション能力を高めてもらえるように努めている。これらはヘルスフードサイエンス学科のディプロマポリシーにある「「食」が身体の健康と心理的・社会的・文化的側面と密接に関わることを理解～」、「食と栄養のゼネラリストとして、多様な職種、地域の人々との円滑な連携の中で力を発揮できる専門知識とコミュニケーションスキルを～」ということにつながっている。同時に大学全体のディプロマポリシーに掲げられている「社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力」を身に付ける土台になると考える。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業アンケートより、授業内容やスライドについてわかりやすい、調理の基礎技術が身についた、いろいろな人と仲良くなれた、大変だったけれど自分たちが関わったものが、実際に販売されてうれしかったという評価を得た。

一方で実習のデモンストレーションや野菜の切り方に関してはもっと間近で見たいなどの意見があったため、今年度は、野菜の切り方について、学生が好きな時に見られるように教員デモンストレーションを録画し、録画データを学内システムにあげた。また、各学生が野菜を切っている姿を学生本人の携帯で撮影し、学生が見本（教員）と自身のフォームを見比べることができるようにした。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

中期目標

- ① 本学科学生考案商品の採択率の向上。
- ② 本学科学生考案商品やメニューがレギュラー化されること。
- ③ 本学科学生考案商品やメニューがコンビニエンスストアや、大学近辺（のくぼ通り）の店舗で販売されることで、関係学生のモチベーション向上の他、本学学生全体のモチベーションの向上、本学科ならびに本学の知名度向上につなげていくこと

短期目標

前年度学生アンケート結果を踏まえ、実習科目のデモンストレーションの改良を続けていく。特に継続的な練習が必要なものに関し録画し、学内システムにあげていく。（本年度中）

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。

（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）

- ・シラバス
 - ・学生アンケート
 - ・UHAS BLOG
-